View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kwansei Gakuin University Repository

2016 年度活動報告　CJP 授業：プロジェクトワーク　話すＡ

西村　由美（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本クラスは口頭で表現する作品制作を学期の課題とし、課題達成のための話し合いや作品作りを通じて、総合的な日本語力を身につけることを目標としている。中級～上級レベル（当センターにおける３～６レベル）の学習者を対象として開講され、今回の受講者は６名であった。１週間に３コマ、計 14 回の授業を通して演劇を取り入れた活動に取り組み、オリジナルの演劇作品を発表した。教材は担当者が作成したものが主で、発音練習用に『にほんご話し方トレーニング』（アスク）の一部を使用した。

2. 授業内容

オリジナルの演劇作品の発表を最終課題として、即興や演劇を取り入れた様々な活動を行った。1 週目は基礎練習として、即興のワークと、感情を伝えることを主眼とした発音練習を行い、２週目からは短いストーリーを作り、毎週発表した。ストーリー作りの素材は、２週目が絵本、３週目が万葉集・新古今和歌集、４～５週目は各自が探した絵や写真、詩歌などである。各素材を創作の土台として、グループでアイデアを出し合い、話し合いながら、ストーリーを作り、演じた。1 週間の主な流れは、①静止画（ある場面を写真のように動きを止めて表す）、②シーン（その場面に動きや台詞を加える）、③ストーリー（複数のシーンをつなげる）の３つである。先に台本を作るのではなく、一部を作り、つないでいくことによって一つの作品に仕上げるという方法である。①～③それぞれの写真や動画を取り、後でそれらを見ながら振り返りを行ったり、宿題としてセリフを書き起こしたりした。最後の授業では「プロジェクトワーク話す B」との合同発表会を行い、他のクラスの学生や教員も見学した。

3. 成果と今後の課題

受講者の６名のうち５名が、演劇の経験がなかったが、全員が意欲的に授業に参加していた。回を重ねるごとに話し合いが活発になり、日本語での表現や演劇的表現も上達していった。学期末アンケートからは、話し合い、演じることを通して、日本語に自信を持ったり、今後の改善点を見出したりしたことがうかがえる。今後検討すべき点は、各ワークの時間配分とフィードバック、評価の方法である。教員、受講者が相互にやりとりすることによって、新たな評価方法を作り上げていきたい。